

新たな時代の開拓者

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、以下SDGs）が国連サミットで採択されてから、今年9月で丸2年を迎える。SDGsの達成に向けて大きな役割を担うと期待されているのが、民間企業だ。企業はSDGsにどのような可能性を見出しているのか。そして、ビジネスの在り方は今後どう変化していくのか。——。新しいステージへと歩み始めた企業の挑戦に迫る。

編集協力：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）理事 後藤敏彦

持続可能な社会の実現は企業の至上命題の一つ

最近、メディアなどでも耳にする機会が増えてきた「SDGs」。あなたはこの言葉を聞いたことがあるだろうか。持続可能な開発目標（SDGs）は、誰一人取り残さない、世界の実現を目指して、国際社会が2030年までに達成すべき課題を掲げた世界共通の目標だ。2015年9月に開かれた国連サミットで採択され、貧困、都市問題、地球環境などに関する17の目標達成に向けた取り組みが、全世界で始まっている。

一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）の後藤敏彦理事は、SDGs達成のためには民間企業の果たす役割が重要だと訴える。「さまざまな財・サービスを提供し、経済や社会を回している主体は民間企業です。その企業の取り組みなくして、社会課題は解決できません」。GCNJには、社会課題の解決に取り組む248の国内企業・団体（今年7月現在）が加盟し、SDGsをテーマとする分科会や、企業の動向調査などを行っている。「自社の事業が実はSDGsの課題につながっているのだという気が少しずつ生まれています。また、自社の経営資源でどの課題に取り組めばビジネスがより発展するのかを考える企業も出ています」

企業がSDGsと向き合い始めた背景として、ここ数年、日本でESG（環境・社会・ガバナンス）を重視する「ESG投資」に対する関心が高まっていることが考えられる。「ESGを重視する投資家の期待に応えるため、企業は中長期のビジネスモデルの構築を求められています。ESGとSDGsへの取り組みは、持続可能な社会をつくる」という点で共通しているため、SDGsの目標を経営戦略に取り込もうとする企業が増えているのです」と後藤理事は説明する。

こうした動きは世界でも広まっている。例えば、CO₂削減が課題となっている自動車産業をみると、インド政府



